

465 $Tc-99m$ MDP による胸水または腹水集積例の臨床的検討

小須田茂、石川昌澄、田村宏平（国立大蔵 放）、
横山邦彦、国枝悦夫、久保敦司、橋本省三（慶大 放）

過去4年間の骨シンチグラフィを retrospective に検索することにより、胸水、腹水に $Tc-99m$ MDP による異常集積を来した45症例につき臨床的検討を行った。

全例、悪性胸水または悪性腹水であり、集積程度は骨への集積に比べて低い症例が多く（43例）、骨への集積と同程度の症例は2例、骨への集積よりも高い症例はみられなかった。骨転移巣は22例に検出された。骨シンチグラフィにて始めて胸水の存在が疑われた症例が4例みられた。

ほぼ同時期に $Ga-67$ シンチグラフィを施行した症例のうち、65%（11/17）に $Tc-99m$ MDP および $Ga-67$ の集積を認めた。

$Tc-99m$ MDP による悪性胸水ないし腹水への集積機序は明らかではないが、胸腹水中の酸フォスファターゼ、コラーゼン形成、カルシウムイオンの胸腹水中への流入、胸腹膜内毛細血管の透過性亢進などが考えられている。今回、65%に $Ga-67$ の集積を認めたことから、腫瘍によっておこる代謝異常が関与している可能性がある。

466 軟部腫瘍における骨シンチグラフィの意義

松本誠一、川口智義、網野勝久、真鍋 淳
（癌研病院整形外科）金田浩一（同放射線科）

I はじめに：軟部腫瘍診療における骨シンチの意義については、第25回本学会にて発表したことが、今回はさらに三相骨シンチを施行した症例も加え他の画像検査と比較したので報告する。

II 症例： Tc -MDP による骨シンチを施行したのは、軟部肉腫48例、良性腫瘍18例であり、その中で14例に三相骨シンチを行なった。

III 結果：①造影剤による動脈造影（contrast angiography）にて hypervascular な腫瘍は RI の blood pool imaging にて hot に描出された。② RI の bone imaging は動脈造影にて hypervascular でない腫瘍でも hot に描出しうる場合があった。③三相骨シンチで得られる blood pool imaging は Tc -fibrinogen や Tc -RBC を用いた RI Angiography で得られる imaging と同様であり、三相骨シンチは RI Angiography に代り得る。

IV まとめ：RI の blood pool imaging は軟部腫瘍の術前検査として必須とは言えないが、三相骨シンチでは新たな侵襲なく blood pool imaging も得られるため有用と考えた。

467 乳癌の胸骨転移に関する検討

塚谷泰司 横山邦彦 西口都 国枝悦夫 尾川浩一
久保敦司 橋本省三（慶大 放）
榎本耕治（慶大 外）
前川全 木下文雄（都立大久保 放）
小須田 茂（国立大蔵 放）

乳癌の骨転移は一般的に血行性であるため、あらゆる骨へ転移が起こり得るが、胸骨のみへの転移が少なからず見られる。過去5年間に施行した乳癌患者約2000例に対する骨シンチグラフィのうち20例が胸骨のみへの転移例であり、前立腺癌、肺癌などの他の悪性腫瘍に比べ有意に高い頻度であった。その胸骨への転移の確認には生検、X線CT、あるいは繰り返しの骨シンチグラフィなどにより行い、乳癌術前の腫瘍の局在、大きさ、リンパ節転移の有無及び場所、病理組織型、さらには術式、放射線治療併用の有無及び範囲等との関連を検索し、さらに乳癌の胸骨転移に関する特徴的な血行動態の可能性について検討した。

468 乳癌の骨シンチグラフィ

— 450例の分析と検討

塚本江利子、川村 直之、伊藤 和夫、中駄 邦博、
藤森 研司、古舘 正從（北大 核）

乳癌は骨転移の多い腫瘍として知られており、乳癌の骨転移の検索における骨シンチグラフィの有用性はすでに多くの施設から報告されている。今回、我々は当科において施行された乳癌の骨シンチグラフィについて RETROSPECTIVE に分析し、若干の検討を加えた。対象は1979年から1986年6月までに当科を訪れた約450例の乳癌患者で検査時の年齢は40代に多く分布していた。初回検査時、術後6ヶ月以内の症例が多く、経過観察期間は最長7年間に及んでいた。STAGE別ではSTAGE I 及びSTAGE II が大半をしめており、STAGE I では骨シンチグラフィの陽性所見を示す症例が非常に少なく、STAGEが進むにつれてその陽性所見が多くなるのは従来報告されている結果と同様であった。又、陽性所見が出現してもある程度まで進行すると治療の成果もあるが、著変のないまま経過する症例も多く認められた。この他、年齢、手術から初発までの期間、初発部位、手術様式、治療様式、他の転移との関係などにつき、分析検討した。